

絆を深め、様々な課題を解決して、誰もが生き活きと暮らす芳田の里

芳田自治協議会だより

2022年5月 NO. 3 編集・発行：芳田自治協議会 芳田の里ふれあい館内 ☎ 27-0066

親子マラソン 楽しかった！

4月24日(日)、小雨の中でしたが、野間川芳田公園を発着点とする周回コースで親子マラソンを開催しました。参加者は19組63人の親子で、芳田地区外からの参加者が多く、中には県外の参加者もいました。

このマラソンはタイムを競うのではなく、親子で楽しく走るファンランで、マラソン終了後はいちご狩りもして、みんなで春の1日を楽しみました。今、芳田地区は新緑の季節を迎え、周りにはすばらしい景色が広がっています。参加者には芳田の魅力を大いに感じ取ってもらえたことでしょう。

芳田自治協議会では、これからも芳田地区外との交流をいろいろと企画していく予定です。



19組63人の親子が集合



野間川芳田公園をスタート

5月28日(土) 芳田自治協議会総会

5月28日(土)の総会に向け、昨年度末から芳田自治協議会では役員会、理事会、各部会で話し合いを重ねて準備を進めてきました。昨年度は年度途中での設立で、しかもコロナ感染が広がる中、事業はほとんどできませんでした。今年度の総会では、活動方針、事業計画、予算を決め、コロナ感染が収束していくことを願いつつ、いろいろな事業を本格的にスタートさせます。

『広報にしわき』4月号の「学校教育の“いま”と“これから”」という特集記事を読まれましたでしょうか。その記事の概略を紹介します。

日本全体の人口減少・少子高齢化の中で、西脇市でも下のように児童数の減少があり、近い将来に1学年の人数が1桁の小学校が複数校生じます。そのため、市では、国の動向も踏まえながら、令和2年7月に西脇市立学校学習環境規模適正化検討会議を設置して、小・中学校における適正な規模・配置について検討してきました。

検討会議では、適正化を検討するに当たって、次の5点を委員間で共有し、協議を重ねてきました。

- ①子どもにとって望ましい学習環境の実現
- ②市内全地域を検討対象・現中学校区基本単位・既存施設の有効活用
- ③一定の集団規模の確保（小中学校全学年）
- ④新たな教育のしくみ（小中一貫教育）の検討
- ⑤保護者・地域住民の理解促進

そして、委員の中で学校の統廃合を視野に入れた再編が望ましいとする意見が多くあったことを踏まえて、事務局から学校再編に向けた4案が提示されました。今後、検討会議では、事務局案をもとに協議を重ね、検討会議としての考えをまとめて、7月に市へ答申を出します。市ではその答申を受け、最終的な方針を決定します。

事務局が提示した右の4案を見ると、4拠点案、3拠点A案、3拠点B案とも《芳田小→重春小》となっており、どの案も芳田小学校は重春小学校に統合されるということです。

事務局の説明では、どの案が採用されてもすぐに芳田小学校が統合されるのではなく、各校の児童数の推移を見ながら15年ぐらいのスパンで考えていくとのことでした。

みなさんは事務局が提示した4案をどのように思われますか。おそらくいろいろな思いがあることでしょう。

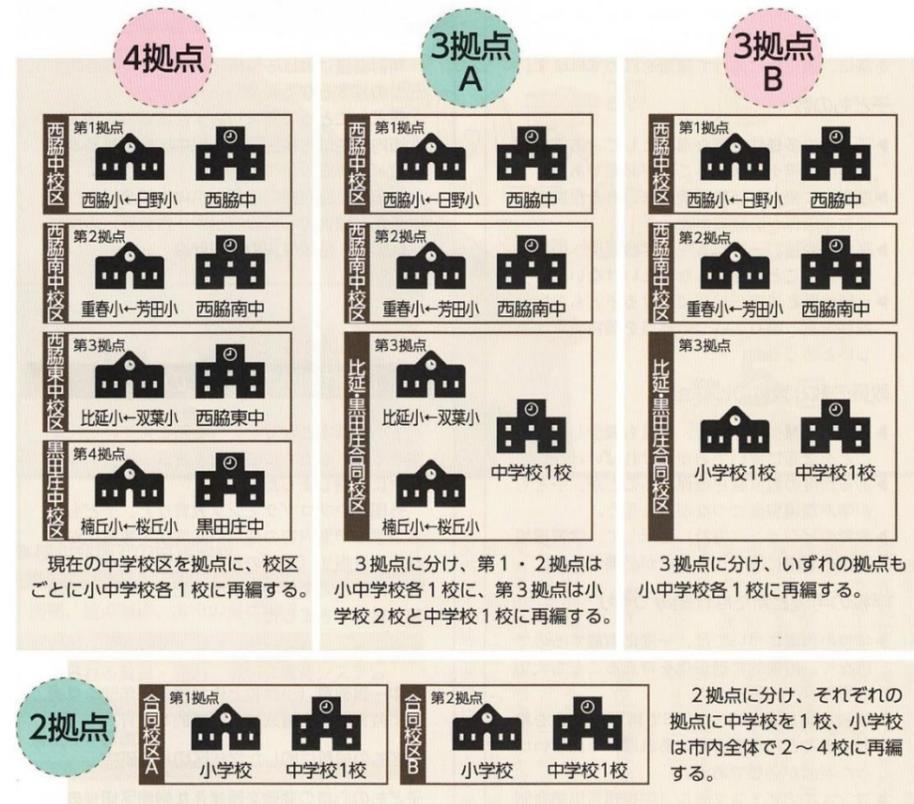
芳田地区では、これまでに市の学習環境規模適正化推進室による説明会が2回開催されました。4案に対して、参加者

学校適正推進課集計による年齢別人数

学年	年齢区分 (R4.4.1 現在)	生 年 月 日	市 内 人 数	芳田地区 人 数
中3	14歳児	H19.4.2~H20.4.1	353	11
中2	13歳児	H20.4.2~H21.4.1	360	19
中1	12歳児	H21.4.2~H22.4.1	334	12
小6	11歳児	H22.4.2~H23.4.1	356	18
小5	10歳児	H23.4.2~H24.4.1	339	14
小4	9歳児	H24.4.2~H25.4.1	310	14
小3	8歳児	H25.4.2~H26.4.1	322	14
小2	7歳児	H26.4.2~H27.4.1	293	5
小1	6歳児	H27.4.2~H28.4.1	319	19
年長	5歳児	H28.4.2~H29.4.1	299	11
年中	4歳児	H29.4.2~H30.4.1	268	12
年小	3歳児	H30.4.2~H31.4.1	240	7
	2歳児	H31.4.2~ R2.4.1	226	10
	1歳児	R2.4.2 ~ R3.4.1	190	0
	0歳児	R3.4.2 ~ R4.4.1	215	7
		計	4424	173

からは積極的に賛成する意見は出ず、次のようないろいろな思いや不安が出されました。

- 芳田小学校を卒業したけど、母校がなくなるのはさみしい
- 南中学校で大きな集団に入っていくのは不安だが、少人数でも自然豊かな芳田小学校で伸び伸びと育ててほしい
- 少人数の方が手厚く指導してもらえる
- 子どもが育つには適正な集団が必要であることは理解できるが、学習環境規模適正化というなら、統合による適正化だけでなく、校区の再編という方法もあるのではないか
- 芳田小学校がなくなれば、芳田地区では市の施設は芳田の里ふれあい館だけになる
- 芳田小学校がなくなれば、芳田地区の衰退を早める



『広報にしわき』4月号より

芳田地区の子どもたちは芳田の宝です。芳田地区のみんなは芳田地区の子どもたちが健やかに育ててほしいと願っていることでしょう。検討会議も教育の視点から今後の学校の在り方を協議しました。子どもたちの成長を最優先に考えるのは当然のことです。

ただし、子どもたちの成長を最優先に考えるべきですが、芳田小学校がなくなることは芳田地区に大きな影響を与えるのも確かです。説明会で誰かが発言されたようにへたをすれば芳田地区の衰退要因になる可能性もあります。

この学校学習環境規模適正化の問題は、教育の問題に留まらず、これらからの芳田地区はどうあるべきかを私たちに問うているのです。今後、市がどのような方針を出すか、まだわかりませんが、みんなで芳田地区の明るい未来図を描いていくことが私たちに求められています。

芳田観光スポット紹介 角尾山城跡

芳田地域を代表する秀峰のである角尾山(標高344m 比高260m)の山頂に築かれています。山頂の主郭から南へ続く尾根に延長90mにわたって9段の曲輪が階段状に築かれ、その西側の縁に沿って通路が通っています。特徴的なのは、山頂の主郭に築かれた石垣積みの櫓台状の高台です。以上の点を総合すると、角尾山城は、小さな曲輪を連ねることから南北朝時代に原型が作られ、戦後時代に櫓台や通路が作られたとともに各曲輪の補強が図られたものと考えられます。このころの山城は合戦の時にこもるための城で、普段は見張り番がいるだけでした。そのため建物も粗末な小屋程度しかなかったようです。



西から見た新緑の角尾山

角尾山城の城主や城史は全く不明です。ただ、戦国時代以降は、当時北播磨地域に大きく覇権を広げていた在田氏が野間城に本拠を置いていたため、芳田地域はその入り口として重要な地となり、野間城を守る監視拠点のひとつになったことが考えられます。

(西脇市教育委員会作製看板より)



日	曜	予 定	日	曜	予 定
1	日		17	火	
2	月		18	水	
3	火		19	木	
4	水		20	金	
5	木		21	土	
6	金		22	日	
7	土		23	月	
8	日	芳田小学校リサイクル活動 8:00~	24	火	
9	月	自治協空き家対策プロジェクト委員会 19:00~	25	水	
10	火		26	木	自治協役員会 18:30~
11	水	自治協芳田ふれあいまつりプロジェクト委員会 19:00~	27	金	
12	木		28	土	自治協総会 19:00~
13	金	自治協理事会 19:30~	29	日	
14	土		30	月	
15	日		31	火	
16	月				